

JCESニュース

Japan Comparative Education Society

NO.8

第41回大会を迎えるにあたって

大会準備委員長 羽田 積 男

昨年、第40回の記念大会が名古屋大学で盛大に開催され、本学会も「不惑」を超えたことになる。かくて学会の将来に問題はないように思うが、次回の第41回の大会をお引き受けする当事者としては、その瞬間から迷いの連続となり決して安穩な日々は過ごせないのである。

かつて日本大学が本大会を開催したのは、第26回大会であったから、ちょうど15年前ということになる。いま手元にある当時の関係ファイルを見れば、当時もまた安穩とした日々ではなかったことが彷彿とする。残念なことに、この時の準備委員会委員長碓井正久先生は、昨年お亡くなりになった。もしもお元気であれば、今大会でもさまざまな助言がいただけるのにまことに残念である。その時の事務局長は私が務めたが、今度は委員長としての重責を担うことになった。若輩であった私は、当時の権藤与志夫会長、望田研吾学会事務局長のお二人には本当にお世話になった。また国立教育研究所の諸先生方にも大いに相談に乗っていただいたことを昨日のように想い出す。

さて、41回大会は6月25日(土)・26日(日)の両日、文理学部キャンパスにおいて開催することになった。15年前の貧弱な学内諸設備は確かに面目を一新するほど変わった。最新の設備をもつ図書館が完成し、また大きなシンポジウムを開催できる快適な講堂も整った。その意味において15年の年月は、十年一日では決してない。かくてインフラでは、大いなる変革を遂げたが、肝心なことが残っている。学会が成功するかどうかは、その学問生産の質と量にかかっているということである。

ひるがえって第26回大会では、自由研究は8部会、課題研究2部会、そしてシンポジウムという規模の学会であった。今回の41回大会も会期は2日間であり、その枠組みもあまり変わらないが、自由研究の部会が大いに増えることを願っている。しかし、増えれば増えるほどまだ不安も募る。昨今では多くの発表者が、コンピュータとプロジェクターを使うことが多くなったが、こうした機器がうまく作動するかどうか悩みのひとつである。理論上では問題なくても、機器は実際に作動しないことも少なくないからである。

今回の大会は、文理学部教育学科が総力をあげてこの大会の運営にあたる。人海戦術とはいわないまでも、多くの学生や院生のお手伝いをいただくことになっている。学問生産の現場にこうした若い学生が参画することがいかに大きな教育作用を引き起こすかを、私は前回の経験で熟知した。その智恵をもって第41回大会を迎えようと決意している。

会員の多数がこの大会へ参加しただき、比較教育学の学問生産の場に立ち会い、そして多くの同士の相集い語らう機会をもちたいと切に願っている。

WCCESキューバ大会に参加して

国際担当理事 二宮 皓

2004年10月25日～29日、キューバ共和国ハバナ市の国際会議場にて開催。世界68カ国からおよそ800人以上の参加者が多数の研究発表を行う。キューバの教育学関係者も900人以上が参加したという。日本からも多数の会員が参加するなど大変盛会であった。



(国際会議場での総会にて)

本大会はアメリカの比較・国際教育学会の会員の強い支援のもと、カストロ政権下のキューバにて開催された。大会開催はキューバとデンマークが激しく招致活動を展開し、僅少でキューバ開催が決定したという因縁深い大会であった。

大会テーマは「教育と社会正義」であった。主要なサブテーマとしては、「教育と平和・正義」「葛藤と再構築下における教育」「変化の激しい世界の教育政策」「比較教育学の方法論」「生涯学習」「社会的統合」「言語・文化と教育」「識字とEFA」「教師教育」「カリキュラム」「高等教育」などであった。

他方でフランス語圏比較教育学会主催のシンポジウムが開催されたり、「キューバ・USA教授対話」プログラムが主催されたり、とこれまでにない特色ある大会となっている。

大会プログラムの一環としてキューバの小学校見学プログラムもあり、チェゲバラの顔を壁面に描いたり、カストロ首相の学校訪問を写真などで展示したり、とキューバの学校らしさを

窺うことができた。カール・マルクス劇場での特別公演の生徒たちの発表もあり圧巻であった。キューバでは国をあげてWCCES大会を開催して頂いたようだ。なお、今大会においてMark Bray氏(香港大学)の会長就任が決まった。

韓国・国際シンポジウムに参加して

大阪成蹊大学 村田 翼夫

2004年11月12日に韓国の国民大学(Kook-min University)で、「国際シンポジウム：教育改革の成果と展望」が開催された。日本比較教育学会から江原武一、宮越英一、森下稔会員と私の4名が出席し、研究発表を行った。出席者は40名弱で多くはなかったが、報告者は韓国の5名に加えて中国から2名あった。

シンポジウムは、教育改革全般、初等教育、中等教育、高等教育と比較教育の展望の5部に分けて行われた。日本の4名は、私が「日本における教育改革の動向」、森下会員が日本の初等教育・宮越会員が日本の中等教育における「改革の成果と展望」、江原会員が“Reforms of Higher Education in Japan: Accomplishment and Prospects”と題する発表を行った。

韓国、中国の報告も各レベルの教育改革の現状と課題に関する意欲的な内容であった。各発表は、韓国語、日本語、中国語、英語の4言語によって行われた。最後に、韓国のLee Byung Jin教授が世界の人々の相互理解を深めるために比較教育を発展させる重要性を指摘した。



(国際シンポジウムでの一幕)

フランス語圏比較教育学会

ASSOCIATION FRANCOPHONE D'EDUCATION COMPARÉE (AFEC)

会 長 ピエール・ルイ・ゴーチエ



フランス語圏比較教育学会（以下、AFECと略記）は1973年に設立されました。本学会は大学、研究機関、開発関連組織、国際的NGOなどに所属する個人や賛助会員のネットワークです。AFECのメンバーは比較教育学の研究、政策および実践に取り組み、現在世界で起こっている教育問題について比較の観点から深く検討することを進めています。AFECメンバーの出身地は、世界の各地に広がっています。この学会の本部はパリにあります。セネガルのダカールに拠点を置くAFEC-AfriqueというAFECアフリカ支部があります。AFECは世界比較教育学会のメンバーです。

AFECはユネスコ、フランス語圏高等審議会（Haut Conseil de la Francophonie）、フランス語圏政府機構（Agence intergouvernementale de la francophonie）、フランス語圏大学機構Agence universitaire de la francophonie）など、種々の国際機関と協力しています。

AFECの目的と戦略：

比較教育学に興味を持つ人々を結集する。研究と経験の交流により比較教育学の実践および教育を促進する。世界の教育・訓練政策に関する研究成果と実践の普及に貢献する。比較教育学に関する政策や戦略についての研究を収集し、批判的に分析し、総合する。様々な国において教育の刷新や訓練政策を促進するため、研究者、実践家、政策決定者に助言サービス、情報、見解を提供する政策決定者のために教育政策に関する専門的意見を述べる。

情報を共有し、共同プログラムや共通の努力を行うために、他のネットワークと協力する。

比較教育学の分野において、言語的多元論の観点からフランス語の使用を促進する。

AFECの活動

AFECは、比較教育学とその教育の発展に関心のある大学、開発関係機関、研究センターおよびNGOを対象とする会議、セミナー、ワークショップを開催します。毎年、AFECは世界のいずれかの地で年次大会を開催しています。その年次大会の結果として、大会に提出された論文の中から選ばれたものをEducation Comparéeあるいはその他の刊行物に掲載するのです。

AFEC連絡先：

Pierre-Louis Gauthier - AFEC - Chemin des Combes
- F 26150 Die Afec.bureau@club-internet.fr

AFEC主催の国際会議とシンポジウム

AFEC主催の研究大会、シンポジウム、セミナー等の開催時期、場所、テーマは以下のとおりです。

2005年10月（仏・セーヴル）

セミナー2005：テーマ「教育、宗教、ライセンス」

2004年10月（キューバ・ハバナ）

フランス語圏比較教育学シンポジウム：テーマ「教育と社会的公正」「学校の不公正、社会の不公正：悪循環はどのようにして断ち切れるか」

2004年3月（ブルキナファソ・ワガドゥグー）

シリーズ：世界の比較教育学会（第8回）

テーマ「教育権：南と北における有効性」

2003年5月（仏・リオン）

テーマ「ハンディキャップの状況と教育制度：比較分析」

2002年5月（仏・カーン）

テーマ「教員養成：恒久性・変化・今日的緊張：比較分析」

2001年5月（ベルギー・ブリュッセル）

テーマ「当該国すべてにおける教育」

2000年5月（スイス・ジュネーブ）

テーマ「教育と労働」

1999年7月（仏・ストラスブール）

テーマ「教育における言語政策」

1998年5月（仏・パリ）

テーマ「フランス語による比較教育学の歴史と未来」

1997年5月（ベルギー・ルーヴァン・ラヌーヴ）

テーマ「教育機関における多様性に対する配慮の方法」

1996年5月（仏・リオン）

テーマ「教育における公権力の役割」

1995年9月（仏・セーヴル）

テーマ「教育における経験の型式、転移、そして交流」

1994年5月（カナダ・モントリオール）

テーマ「複合主義と教育：カナダ、ヨーロッパ、そして南側諸国における政策と実践」

1993年5月（仏・セーヴル）

テーマ「教育における国際協力の新たな形：世界的展望」

1991年5月（仏・セーヴル）

テーマ「教育における価値の回復」

1990年5月（仏・セーヴル）

テーマ「教育研究と実践」

アジア比較教育学会第5回大会案内

アジア比較教育学会第5回大会が下記のように“Education for World Peace: The Asian Context”というテーマで開催されます。奮ってご参加下さいますようご案内いたします。

（アジア比較教育学会事務局長 望田研吾）

1. 年月日：2005年5月30日・31日
2. 場所：Universiti Kebangsaan Malaysia
3. 大会事務局：
Secretariat, The 5th Comparative Education Society of Asia, Biennial Conference 2005
Faculty of Education, Universiti Kebangsaan Malaysia, 43600 UKM Bangi, Selangor, MALAYSIA
4. 大会参加費：250米ドル
5. 問い合わせ先：
email: cesa2005@pkisc.cc.ukm.my
(Attn: Dr. Hamdan Mohd. Ali or Dr. Ramlee Mustapha)
TEL: +063-8921-6245/6339
FAX: +603-8925-4372
6. 大会ホームページ：
<http://www.ukm.my/cesa2005>
(詳細はこちらをご参照下さい)

会費納入のお願い

会費未納の方は納入にご協力下さい。通常会員9,000円、学生会員5,000円（2005年度からはそれぞれ10,000円、6,000円）です。振込先は郵便振替口座00820-6-16161 日本比較教育学会事務局です。本学会では当該年度の会費納入を確認後、学会紀要『比較教育学研究』をお送りしています。また、3年以上会費未納の方は会員資格を失うことになっています。

故沖原豊元会長と日本比較教育学会

本学会の沖原豊第4代会長は、かねて病気療養中でしたが、薬石効なく昨夏、不帰の客とられました。

沖原元会長は広島文理科大学教育学科・同大学院での学問的研鑽の後、昭和28年に広島大学教育学部助手に就任されました。爾来、平成元年5月に広島大学長職を退任されるまで、また、その後も一貫して教育、研究、管理運営そして社会貢献の各分野において卓越した手腕を發揮されました。

当初、教育行政理論の研究を専門とされていた元会長と比較教育学との出会いは、昭和34～35年フルブライト留学生として米国コロンビア大学に在籍中のことでした。その後、広島大学に比較教育制度学講座の礎を築かれ、F・シュナイダー著『比較教育学』を翻訳・刊行されるなど、この学問の日本での定着・制度化に尽くされました。学位論文に基づく『日本国憲法教育規定研究』（風間書房刊）では、明治憲法ならびに諸外国憲法との垂直的・水平的比較の手法が駆使され、教育行政学者と比較教育学者という二つの本領が見事に結びついています。

幾多の著作のうち、本学会への学問的貢献という点では、『学校掃除の研究』に始まり、その後の「体罰」「校内暴力」など、学校の文化・慣行・問題をめぐる一連の研究に触れないわけには行きません。身近な、常識となっている事柄に研究の光を当て、その社会・文化・思想的背景を解明するという、比較教育学研究にとって意義深い研究方向の一つが指し示めされたように思われます。本学会創設メンバーの一人であり、学会の発展に多大な貢献をされた故人の足跡をたどることが、学会の更なる発展を考えるよすがとなればと思うとともに、ご冥福を心からお祈りしたいと存じます。

（広島大学比較国際教育学研究室 大塚豊）

新刊書紹介



D.Groux(dir.),S.Perez,
L.Porcher, V. D.Rust et
N.Tasaki, *Dictionnaire
d'éducation comparée*,
L'Harmattan, 2002,
436pp.
(ISBN 2-7475-4157-6)

フランス・ヴェルサイユ大学区大学附設教員養成部（IUFM）の教授であるグルー女史が長となり編集された比較教育学事典です。第一部では比較教育学のグローバルなアプローチに関して、人類学、経済学、哲学、言語学などを、第二部ではこの分野における100弱の概念と項目を取り上げ解説しています。項目について、各国の関心に基づいた考えや解説を並列するのも国際理解に繋がるのではとの話になり、一項目に複数の国の執筆者がいてもよいという方針が採られました。

当初はエンサイクロペディア的な事典が構想され、その後困難に面し頓挫したかに見えましたが、急に復活。そのあとの仕事の速さは驚くばかりで、出版社の都合もあったようですが、私を含め雑事に追われている執筆者には間に合わず断念せざるを得ないも項目も生じました。複数の執筆者による項目があまり実現していない一因といえます。ちょっとしたお手伝いでしたが、図らずも大学人の仕事、多忙さの比較ともなり、考えさせられました。

この分野においてフランスで出版された初めての事典になるようです。いくつかの項目は英語で解説されています。改訂を重ねていつか当初の目的に到達するように、またこの日本語版が出版できればと願っているところです。

（福岡教育大学 田崎徳友）

事務局からのお知らせ

学会への寄付

権藤與志夫会員（元会長）より学会発展のためにと、寄付（30万円）の申し出がありました。理事会で検討の結果、お受けすることとし、御厚意に報いるよう、学会活動の活性化のために活用させて頂くことになりました。

学会紀要の年2回刊行の予告！！

近年、学会紀要への投稿論文数が増え、また特集記事や書評、文献紹介の量も多くなりました。こうした傾向に対応し、また会員サービスのいっそうの向上という観点から、紀要の年2回刊行が課題とされ、紀要編集委員会、常任理事会で審議を重ねてきました。数年間の審議の結果、ほぼ構想が固まりました。正式決定は今年6月の全国理事会において行われますが、決定後の会員各位による論文投稿の便宜を考え、予め年2回刊行に伴う主な変更点（予定）をお知らせ致します。

投稿論文の提出締め切り：1回目が2005年8月20日（第32号）、2回目が2006年1月20日（第33号）

投稿論文の原稿分量：400字詰め原稿用紙42枚から50枚に増加

なお、上記以外、ほぼ現在の「投稿要領」に準じていますので申し添えます。

（紀要編集委員長 村田翼夫）

40周年記念募金者

2004年9月以降に下記5名の会員から募金を頂きました。（敬称略）

一村弘幸、近藤孝弘、関川悦雄
所 伸一、劉 勇

新入会員

（2004年7月～2005年2月、入会申し込み順）

猫田 英伸	広島大学大学院生
麻生 久美子	ミネソタ大学大学院生
松下 丈宏	東京都立大学大学院生
白村 直也	東京外国語大学大学院生
劉 勇	名古屋大学大学院生
立花 有希	早稲田大学大学院生
渡辺 恵子	国立情報学研究所
渡辺 雅子	国際日本文化研究センター
神原 信行	ニューヨーク州立大学バッファロー校修了
崔 民晁	早稲田大学大学院生
古川 範英	名古屋大学大学院生
ハス 格日楽	東京都立大学大学院生
片山 弘倫	ピッツバーグ大学大学院生
米澤 彰純	大学評価・学位授与機構
秋場 素子	University of Missouri-Columbia
野村 彩子	東京大学大学院生
李 如海	広島大学大学院生
島 竜一郎	名古屋大学
相羽 秀伸	早稲田大学大学院生
新開 禎子	ラトガーズ教育大学院修了
Golovanova, Evgeniya	筑波大学大学院生
當山 清美	兵庫教育大学大学院生
鶴見 陽子	中央大学大学院生
小黑 恵	東京アカデミー広島

（2005年2月20日現在の会員数は827名）

編集後記

現広報委員会としては最後の仕事となるニュースレター第8号の編集を終えました。新年度には紀要年2回発行という画期的改革が断行されるようです。新体制の下、『JCESニュース』の誌面も刷新されることを祈ります。

（O.Y.）

日本比較教育学会事務局

〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院教育発達科学研究科内
TEL&FAX：052-789-2634
E-mail: jces@educa.nagoya-u.ac.jp
ホームページ：http://wwwsoc.nii.ac.jp/jces/index.html